資料２－１

WPI プログラムの将来構想に関する論点（案）

基礎研究振興課

プログラム全体

1. WPI プログラムを事業単独で考えず、関連する事業との連携を重視
   - 組織改革の成果が拠点の中で閉じて、大学全体が変わっていないことが最大の問題。組織内の孤立した特区になっている。
   - 文科省内の各種施策と連携し、相乗効果を高める必要（大学改革（ガバナンス改革、指定国立大学（仮称）の創設等）、研究大学への支援制度、研究者の海外派遣・受け入れ制度等）。
   - 世界トップレベルの研究拠点となりうるポテンシャルを持つ研究所等との連携も検討（同一の厳しい基準の設定等）。
   - 特にアソシエーション（仮称）（後述）の検討に当たっては、他の事業との連携を重視。

2. WPI プログラムの目標、4大ミッションの大枠は維持
   - 「世界から見える頭脳循環のハブとなる『世界トップレベル研究拠点』を確立する」という目標の下、現在の4つのミッション（①最高水準の科学の推進、②融合研究によるブレイクスルーの創出、③国際化の達成、④研究と運営のシステム改革）の大枠を維持。
   - ①最高水準の科学は、必須条件であり、4つのミッションの１つではなく、②～④の前提となる目標ではないかとの意見もある。この場合、目標：「最高水準の科学を推進し、世界から見える頭脳循環のハブとなる『世界トップレベル研究拠点』を確立する」、と3つのミッションとなる。
   - ②融合研究については、融合研究の自己目的化の指摘がある一方、拠点形成のための大きな原動力となったという指摘もあり、その扱いは引き続き検討。
   - ④システム改革をホスト機関内に拡大する観点から、1. の視点を重視。
   - 新規公募に当たっては、①最高水準の科学の推進を前提としつつ、④研究と運営のシステム改革の観点と、どうバランスを取るのかが、今後の WPI 事業の方向性に関わる。
     - A) 学内に2つ目のWPI拠点ができれば、学内改革に大きなプレッシャー？既存拠点から出た新しいサイエンスの芽を育てるためにも、2つ目の拠点公募を許容すべきか？
     - B) WPI拠点が存在することのインパクトは、大規模大学の中にあるより、中規模大学内にある方が確実に大きく、組織改革を進めるうえでもコストパフォーマンスが高い？
     - C) 引き続き研究開発法人もホスト機関の対象とすべきか？

3. 拠点間の連携、協働を強化する
   - これまで各拠点は競争的な環境におかれ、情報交換も希薄な傾向。

- 第1期の成功と経験を踏まえ、「世界トップレベル拠点」の形成に資する情報、ノウハウの共有を積極的に図るよう転換。　→アソシエーション事務局の設置

4. プログラムの運営、評価の仕組みの進化を図る
   - 拠点数の増加やアソシエーション（仮称）の設置等に対応し、プログラム委員会の運営方法や PD/PO との役割分担についても検討が必要
   - 評価結果の毎年度予算配分への反映、若手の登用なども検討

プログラム支援事務局の機能

1. 拠点間の情報共有のハブ
   - 拠点間で共有すべき情報、ノウハウを継続的に収集、発信。
   - 複数の拠点を渡り歩いて拠点の生きた情報を集める機動的スタッフの配置。
   - 本部による異なる拠点間の事務面への支援は、WPI拠点としてのアイデンティティの確立、維持に有効。

2. 若手研究者のリクルートのサポート
   - 拠点が蓄積した外国人への生活面での支援や国際公募のノウハウ等を共有。人材募集情報の一元化など。

3. スタッフの機能強化支援
   - 外国人支援等のための事務職員のトレーニング機能。
   - 海外のREI拠点とWPI拠点間の事務スタッフの相互交流の促進。
   - アウトリーチ活動等の共有・一元化。

◆ プログラム支援事務局の組織、運営の在り方についても検討（既存の関連組織（JSPS 等）、拠点のうち 1 つを指定、民間の活用等）

新規公募

第 1 期の経験を踏まえ、公募の段階で拠点・ホスト機関への公募要件を具体的に定める。

1. 人材育成機能の強化
   - 大学院生の受け入れなど教育的機能の付与、大学院生への経済的支援の組み込み。
   - 「国際化・外国人」だけでなく、女性の活躍促進なども含めた多様性確保の観点を導入。
   - 拠点の中で特定の PI につかず、自立して活動するポスドクへの支援
   - 拠点としての研究者の海外派遣（毎年一定期間）。

2. 組織体制の強化
   - 組織の円滑な立ち上げや支援終了後の自立のため、拠点へのテニュア定員の割振（既存組織のスクラップ等）。

- 一定数以上のホスト機関の事務職員がホスト機関と人事交流。
- 拠点幹部への外国人の登用を促進
-

WPI Association（仮称）の設置

- 平成19年発足の5拠点は、すべて World Premier Status を達成したと評価された。
- 過去の投資効果の最大化を図るため、世界から見える研究拠点の機能や国際的な研究環境を極力維持することが必要。
- 拠点形成の支援を受けてきた拠点は、WPIプログラムの目標、ミッションの更なる達成のために、今後、ホスト機関内や他の拠点における改革の先導役を担うことを期待。
- このため、文科省の研究システム改革の一環として、通常の競争的資金では対応が難しい項目（次項「支援対象事項」参照）に限定した支援を検討。

支援対象事項

1. 拠点としての国際連携・頭脳循環活動
   - 海外のサテライト研究所による組織的な共同研究
   - 拠点としての研究者の海外派遣や著名研究者の招へい

2. 拠点としての若手の独立研究環境の維持や若手の育成
   - PI に属さない拠点直属のポスドク
   - RA 経費、ウィンタースクール開催

3. 拠点として国際的な研究環境の維持
   - バイリンガルな事務人材、アウトリーチ人材

4. 拠点としての機器共用の仕組み
   - システムの維持やテクニシャンの経費
   - 機器の更新は競争的資金で手当